

時間割コード	KZ2001	ナンバリング	KZ-MUL-231-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火2	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教育概論				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙（An Yongsu）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

外国人学習者に対して日本語を教えるために必要な基礎知識を学ぶ。この授業では、日本語教育の概要、日本語学習者の特徴、日本語教師の役割について色々な角度から学び、日本語教育の基礎知識を身につけることを目標とする。

## キーワード/Keyword(s)

日本語教育、日本語教授法、日本語学習者、日本語教師、外国語としての日本語、異文化理解

## 到達目標/Learning Objectives

- ①日本語教育の教育内容や教育方法について理解できる。
- ②日本語学習者の実態と日本語教師の役割について理解できる。
- ③日本語教育と関連分野との関係について理解できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1.①オリエンテーション②日本語教育とは何か（ユーチューブの視聴）
  - 2.日本語教育と国語教育の比較
  - 3.日本語教育における母語の役割
  - 4.日本語教授法 I
  - 5.①日本語教授法 II ②日本語・日本語教育史
  - 6.社会言語学
  - 7.第二言語習得論
  - 8.外国人が日本語教師によくする質問（課題発表 I）
  - 9.外国人が日本語教師によくする質問（課題発表 II）
  - 10.日本語教育の音声
  - 11.日本語教育の語彙
  - 12.日本語教育の評価法
  - 13.初級・中級・上級の指導内容
  - 14.異文化コミュニケーション
  - 15.①日本語教師の②心構え総括
- 【授業外学習】
- ①1～3、5～7、10～14は教科書を読んで授業に臨むこと。また、各テーマに関して自分の過去の外国語学経験と比較してからどこが似ていてどこが違うのか、考えてくること。
- ②3は、自分が今まで受けた語学授業の中から「特に良かった外国語教師・授業」と「あまり良くなかった外国語教師・授業」について取り上

げて発表する。レジュメを作成する際は、1) 学習した外国語、2) いつ、どこで（学校、塾、個人指導など）、誰に習ったか、3) 授業はどうだったか（授業内容、教え方、テストなど）、について具体的に書くこと。

③8～9は「外国人が日本語教師によくする100の質問」の中から各自に課題を与える。レジュメを作成する際は、具体的な用例を挙げながら、必要に応じて絵、写真などを適宜使用すること。

④授業で配布するプリントを使って復習すること。

⑤各回の授業外学修に要する時間は平均90分程度を目安とする。

#### 【アクティブ・ラーニング】

①1～3、5～7、10～13は講義形式の授業を行う。講師の話を一方向的に聴くのではなく、各テーマに関して、受講生の外国語学経験談を話してもらい、場合によってはディスカッションをしながら進める。

②3は自分が今まで受けた語学授業の中で「特に良かった外国語教師・授業」と「あまり良くなかった外国語教師・授業」について取り上げて、皆の前で発表し質疑応答を行う。

③8～9は「外国人が日本語教師によくする100の質問」から各自に課題を与え、中級レベルの日本語学習者に教えることを想定してレジュメをまとめて、皆の前で発表し質疑応答を行う。

④15は授業全体の振り返りを行うとともに、場合によっては海外の協定校で日本語教育演習を履修した学生の発表を聴いて質疑応答を行う(都合により変更の可能性有)。

## 履修上の注意/Notes

①2/3以上の出席がない場合は不合格となる。②遅刻3回は欠席1回とみなす。③授業開始後30分以上の遅刻は欠席とみなす。

## 情報端末の活用

授業でPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+：到達目標①②③を十分に達成し、きわめて優れた学修成果を上げている。

A：到達目標①②③を達成し、優れた学修成果を上げている。

B：到達目標①②③の学修成果を概ね達成している。

C：到達目標①②③の最低限の到達目標に届いている。

D：到達目標①②③に届いておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

1. 授業への貢献度20%
2. レポート80%
3. 16回目に期末試験を行わない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	改訂新版日本語教授法
著者名	石田敏子
出版社	大修館書店
出版年	1995
ISBN	9784469221077
教材費	

備考	その他、必要な資料等を適宜配布する。
----	--------------------

## 参考書/Reference Book(s)

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語のみ
-------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2002	ナンバリング	KZ-MUL-231-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	多文化社会と日本語教育				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝, 青木 香代子（Masaki Seo）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

多様化する日本語教育の現状を学習者に焦点を当てて紹介する。特に多文化社会となりつつある日本国内において、共生言語となる日本語をどのように捉え、どのような指導が求められるのか等、各現場における日本語指導や日本語学習支援のあり方を考える。

## キーワード/Keyword(s)

多文化社会 定住外国人 外国人児童生徒 継承語 日本語学習支援会

## 到達目標/Learning Objectives

グローバル化に伴い多様化する日本語教育の現状が理解できる。  
各現場で求められる日本語指導・日本語学習支援の在り方を考えることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回. シラバスによるガイダンス、日本語教育の現状 【瀬尾】

第2回. 日本語だけで教えたほうがいいのか？—媒介語について考える 【瀬尾】

第3回. 性の多様性を踏まえた日本語教育—インクルーシブな学習環境を考える 【瀬尾】

第4回. 宗教や政治はNGの話題？—教室の話題について考える 【瀬尾】

第5回 「花マル」ってあり？—言語教育とパターンリズムを考える 【瀬尾】

第6回. 何を目的にどのように教えたらい？ 【瀬尾】

第7回. あの学生は“不真面目”なのか？—留学生の社会的背景を考える 【瀬尾】

第8回. 教師の仕事はサービス業？！—言語教育と経済の関係を考える 【瀬尾】

第9回. 「生活者としての外国人」に対する日本語教育 【青木】

第10回. 地域社会における日本語教育（やさしい日本語） 【青木】

第11回. 年少者に対する日本語教育（成長・発達モデルの視点から） 【青木】

第12回. 年少者に対する日本語教育（教育の方法と現状） 【青木】

第13回. 継承語としての日本語教育 【青木】

第14回. 文化間移動する子どもたちのことばと学び：輪読① 【青木】

第15回. 文化間移動する子どもたちのことばと学び：輪読② ふりかえり・まとめ 【青木】

【授業外活動】

- ・manabaにアップロードされる予習シートに記入し、授業前の指定された時間までにmanabaに提出すること。
- ・授業後、manabaによる復習シートに回答し、次の授業前までに提出すること。
- ・各回の授業外学修に要する時間は平均 90 分程度を目安とする。（レポート作成や発表準備を含む）

### 【アクティブ・ラーニング】

- ・全授業後に、manabaのアンケート機能を使用して、リフレクティブ・ジャーナルによる「ふりかえり」を行う。
- ・第1回～7回は講義とともに、講義や予習資料から得た知識をもとにいくつかの課題について考え、ブレインストーミング、グループディスカッション等を交えながら授業を進める。
- ・前半（担当：瀬尾）、後半（担当：青木）の内容に関するレポートを課す。
- ・第9回～13回では、各テーマについてのグループディスカッションを行う。
- ・第14回、15回は川上郁雄著『私も「移動する子ども」だった』を輪読し、担当箇所の概要を発表し、ディスカッションを行う。

## 履修上の注意/Notes

- ・遅刻3回で欠席1回とする。2/3以上の出席がないものは不合格とする。
- ・輪読する教科書『私も「移動する子ども」だった：異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー』くろしお出版(1400円)を購入すること。生協での購入は授業中盤以降になる。
- ・オフィスアワー： 瀬尾： 金曜日3講時 青木： 木曜日3講時

## 情報端末の活用

- ・課題の提出はmanabaで行う。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方を十分に修得し、きわめて優れた学修成果を上げている。
- A : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方を修得し、優れた学修成果を上げている。
- B : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方を概ね修得し、学修成果を概ね達成している。
- C : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、合格と認められる最低限の到達目標に届いている
- D : 多文化社会における日本語教育の基本的な知識と考え方が修得できておらず、再履修が必要である。

## 成績の評価方法/Grading

レポート(25×2本)50%、発表15%、提出物(予習シート・復習シート等)20%、授業貢献度(自発的な発言、リフレクティブ・ジャーナルを含む)15 %  
16回目に期末試験を実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	私も「移動する子ども」だった：異なる言語の間で育った子どもたちのライフストーリー
著者名	川上郁雄 編著
出版社	くろしお出版
出版年	2010
ISBN	9784874244746
教材費	1400

備考	授業時に資料等を配布する。
----	---------------

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	文化間移動をする子どもたちの学び：教育コミュニティの創造に向けて
著者名	齋藤ひろみ, 佐藤郡衛 編
出版社	ひつじ書房
出版年	2009
ISBN	9784894763432
教材費	2800

参考書2

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	9784893589255
教材費	1800

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

○
---

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ
-------

実務経験のある教員による授業科目

--

**実践的教育から構成される授業科目**

--

**社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）**

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2003	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火1	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	3年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法Ⅱ				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

学習者の多様なニーズに合わせた日本語教育が行えるよう、カリキュラムデザインの方法を学び、教科書の選定や生教材、視聴覚教材等、さまざまな教材の活用法を学ぶ。さらに後半では模擬授業を行い、より実践的な技術を身につける。

## キーワード/Keyword(s)

日本語教授法、カリキュラムデザイン、教材研究、模擬授業、教案

## 到達目標/Learning Objectives

- 教科書や教材についての知識を深め、適切な教科書・教材の選定や教材作成ができるようになる。
- 日本語授業の教案を作成し、それをもとに模擬授業を行うことで実践的な技術を身につけることができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回	【授業内容】 授業ガイダンスとカリキュラムデザイン 【授業外学修】 授業内容の復習、教科書分析の準備
第2回	【授業内容】 初級文法と動詞の活用 【授業外学修】 教科書分析のレポート作成
第3回	【授業内容】 教科書分析発表 【授業外学修】 配布資料を基に予習と復習を行う
第4回	【授業内容】 授業の流れ：導入・文法説明・ドリル 【授業外学修】 ドリル作成準備
第5回	【授業内容】 文字・表記（ひらがな・カタカナ・漢字） 【授業外学修】 ドリル作成準備
第6回	【授業内容】 ドリル発表 【授業外学修】 配布資料を基に予習と復習を行う
第7回	【授業内容】 授業観察と教案作成 【授業外学修】 配布資料を基に予習と復習を行う
第8回	【授業内容】 中級文法と待遇表現 【授業外学修】 教案第1案作成
第9回	【授業内容】 教案の検討 【授業外学修】 教案の修正
第10回	【授業内容】 中・上級の読解① 【授業外学修】 模擬授業教案作成と文法の予習
第11回	【授業内容】 中・上級の読解②



【授業外学修】 模擬授業教案作成と文法の予習

第12回 【授業内容】 模擬授業①

【授業外学修】 模擬授業教案作成と文法の予習

第13回 【授業内容】 模擬授業②

【授業外学修】 模擬授業教案作成と文法の予習

第14回 【授業内容】 模擬授業③

【授業外学修】 レポート作成準備

第15回 【授業内容】 授業総括ディスカッション

【授業外学修】 レポート作成

【アクティブラーニング】

- ・全ての授業で、積極的な発言やディスカッションが求められる。
- ・ドリル作成では、自作ドリルを授業形式でデモンストレーションする。
- ・日本語学習者とオンラインを通じて交流し、相互に学び合う。

## 履修上の注意/Notes

日本語教授法 I を履修済みであること。

遅刻3回で1回の欠席とみなす。30分以上の遅刻は欠席とみなす。

積極的な発言が期待される。

2/3以上の出席がない場合は不合格となる。

## 情報端末の活用

オンライン教材の作成や海外協定校との交流などでPC等の情報端末が必要となる。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

A+:到達目標の2点について極めて高レベルで達成されている。

A: 到達目標の2点について高レベル以上で達成されている。

B: 到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。

C: 到達目標の2点について最低限のレベル以上で達成されている。

D: 到達目標の2点について達成されていない。

## 成績の評価方法/Grading

教科書分析10%/文法・基礎ドリル作成10%/教材作成10%/模擬授業:25%/レポート30%/授業貢献度15%

16回目の期末試験は実施しない。

## 教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	初級日本語〈げんき〉第3版 = GENKI AN INTEGRATED COURSE IN ELEMENTARY JAPANESE
著者名	坂野永理, 池田庸子, 大野裕, 品川恭子, 渡嘉敷恭子 著
出版社	ジャパンタイムズ出版
出版年	2020
ISBN	9784789017305
教材費	3600

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	初級日本語文法と教え方のポイント
著者名	市川 保子 著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883193365
教材費	2000

### 参考書2

書名	みんなの日本語初級1本冊
著者名	スリーエーネットワーク 編著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	2012
ISBN	9784883196036
教材費	2500

### 参考書3

書名	できる日本語
著者名	できる日本語教材開発プロジェクト 著
出版社	アルク
出版年	2011
ISBN	9784757419773
教材費	3400

### 参考書4

書名	まるごと 日本のことばと文化 入門 A1 りかい
著者名	
出版社	三修社
出版年	2013
ISBN	9784384057539
教材費	

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	◎
課題解決能力	○
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	

社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

### アクティブ・ラーニング型科目

○
---

### PBL科目

--

### 地域志向科目

--

### 使用言語

日本語のみ
-------

### 実務経験のある教員による授業科目

--

### 実践的教育から構成される授業科目

--

### 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2004	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	4年次～4年次		
開講年度	2022年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法演習				
担当教員（ローマ字表記）	安 龍洙（An Yongsu）				
シラバス用備考	【前期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

日本語授業の実際を体験的に学ぶことにより、教育能力の向上を図る。授業では、主に大学内で開講されている留学生のための日本語クラスの授業観察・参加を通して日本語教師として必要な知識・能力についての認識を深める。

また、担当教員の指導のもと、初級レベル～上級レベルの授業実習も行う。授業観察・実習演習・グループでの討論を通して理解を深める。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教案、教壇実習

## 到達目標/Learning Objectives

1. 授業観察・授業参加を通して日本語教育に必要な知識・能力とは何か理解できる。
2. これまで学んだ知識と技能を基礎として、教案及び教材を作成し、実際に授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 授業についてのオリエンテーション

第2回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第3回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第4回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)

第5回 教案・教材作成  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)

第6回 実習準備  
(学生授業シミュレーション)

第7回 教壇実習①  
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)

第8回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第9回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第10回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
【8～10回の授業外学修】授業後レポート：見学した授業について報告を行う

第11回 教案・教材作成及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等  
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)

第12回 実習準備  
(学生授業シミュレーション)

第13回 教壇実習②

(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)

第14回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)

第15回 反省会とフィードバック

(グループディスカッション:ラウンドロビン：本授業を通じた振り返りを行う)

#### 【授業外学修】

- ・各回の授業外学修に要する時間は平均90分程度を目安とする(実習授業準備、レポート作成や発表準備を含む)。
- ・授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨むこと。
- ・授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に活かせる点を書き留め、授業見学記録として提出すること。
- ・教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深めておくこと。
- ・教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成すること。助言に基づき、改善に取り組むこと。
- ・教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組むこと。
- ・授業見学記録や教材、教案等はポートフォリオとしてまとめておくこと。

#### 【アクティブラーニング】

- ・授業全体として担当クラスでの教壇実習に向けてのPBL(Project Based Learning)として行う。
- ・「授業見学・参加」では、茨城大学日本語研修コースに参加し、授業の流れや学習者を観察し、日本語を教えるにあたっての基本的知識や姿勢を学び、授業見学記録にまとめ、教壇実習に備える。また、必要に応じて、会話練習の相手やディスカッションのメンバー等として授業に参加する。
- ・「教案・教材作成」及び「実習準備」では、指導教員の助言を得て、教案や教材を作成し、必要に応じて改善した上で、授業シミュレーションを行って教壇実習に臨む。
- ・教壇実習では実際に日本語研修コースで外国人留学生対象授業を2回行う。教壇実習の後には「振り返り」を行い、授業の改善方法について考える。

## 履修上の注意/Notes

- ・2/3以上出席しない場合は、不合格とする。遅刻は認めない。
- ・「日本語教育プログラム」の選択科目の所要単位をすべて修得済みで、同科目以外の必修科目をすべて履修済みであること。

オフィスアワー：瀬尾（金3・共通教育棟1号館228）

## 情報端末の活用

授業内でPCを使用

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができる。
- A：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができる。
- B：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができる。
- C：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができる。
- D：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができていない。

## 成績の評価方法/Grading

実践授業40%、レポート40%、授業貢献度20%

16回目に期末試験は行わない。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	初級日本語「げんき」 : an integrated course in elementary Japanese
著者名	坂野永理, 池田庸子, 大野裕, 品川恭子, 渡嘉敷恭子 [著]
出版社	The Japan Times
出版年	2011
ISBN	9784789014403
教材費	3500

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KZ2051	ナンバリング	KZ-MUL-231-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法 I				
担当教員（ローマ字表記）	瀬尾 匡輝（Masaki Seo）				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

日本語を教えるために必要な、教授法、教材、評価法等に関する基礎知識を学び、その知識を活用する力を養う。多様な学習者に対する日本語教育実践への理解を深めるとともに、外国語としての日本語を教えることについて学ぶ。

## キーワード/Keyword(s)

言語教育、教授法、教材・教具、シラバスデザイン、コースデザイン

## 到達目標/Learning Objectives

1. 日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基礎知識を理解し、説明できる。
2. 日本語教育の多様性を理解し、学習者に応じた教育実践の在り方について考え、説明できる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスによるガイダンス/教師の役割/日本語教育の目的とは
- 第2回 ニーズ調査・レディネス調査/学習者に対するニーズ調査を実施する  
【授業外】 ミシガン州立大学の学生にニーズ・レディネス調査を実施する
- 第3回 実施したニーズ調査をふりかえる
- 第4回 ミシガン州立大学の学生に向けたコミュニケーション活動を考える  
【授業外】 初級を教えることの動画を視聴（反転学習）
- 第5回 活動のふりかえり/コミュニケーションタスク
- 第6回 ミシガン州立大学の学生に向けたコミュニケーション活動を考える  
【授業外】 インフォメーション処理活動に関する動画を視聴（反転学習）
- 第7回 活動のふりかえり/文化を教える
- 第8回 ミシガン州立大学の学生に向けた文化紹介活動を考える  
【授業外】 ミシガン州立大学の学生との授業交流
- 第9回 活動のふりかえり/ベトナム・ハイフオンの地域密着型日本語教室プロジェクトの概要説明
- 第10回 非母語話者教師との協働について
- 第11回 ハイフオン大学の地域密着型日本語教室プロジェクトでの活動の準備  
【授業外】 ハイフオン大学の地域密着型日本語教室プロジェクトへの参加①
- 第12回 活動のふりかえり/茨大企画の活動の準備
- 第13回 茨大企画の活動の準備継続  
【授業外】 ハイフオン大学の地域密着型日本語教室プロジェクトへの参加②
- 第14回 活動のふりかえり
- 第15回 今後も成長し続ける教師になるために/この授業で何を学んだのか



#### 【授業外学修】

- (1) 教科書及び配布されるプリントをもとに授業の前に予習するとともに、スライドや授業ノートをもとに授業後に復習を行う。
- (2) 担当教師が作成する反転学習用の動画を視聴する。
- (3) シラバスに記載されている参考書を図書館などで入手し、関係する箇所を読んでおく。
- (4) 授業毎にリフレクションを提出する。
- (5) アメリカ・ミシガン州立大学の学生に向けてウェブ会議システムZOOMを用いてオンラインによる日本語授業を行う。
- (6) ベトナム・ハイフォン大学の学生と協力して、ハイフォン市内の地域密着型日本語教室プロジェクトの運営をサポートする。
- (7) 上記に述べた課題を遂行するにあたり、教室外でグループで教案・教材を作成する等の準備を行う。
- (8) 指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成する。助言に基づき、改善に取り組む。
- (9) 活動で作成した教材はポートフォリオとしてまとめる。
- (10) ベトナム・ハイフォン大学の日本語学習者のインタビューに答える。

各回の授業外学修に要する時間は平均120分程度を目安とする(協定校でのオンラインによる日本語授業、そのための準備、ふりかえりの時間、反転学習用の動画視聴を含む)。

#### 【アクティブラーニング】

- (1) 各回の授業では、講義の内容について考えたことをペアやグループで話し合う。
- (2) 海外で日本語を学ぶ学生に対して日本語を教える活動を授業外で行う。

授業では2つの課題を課す。

課題①では、ミシガン州立大学で日本語を学ぶ学生(初級)に対して、ウェブ会議システムZOOMを用いてオンラインによる日本語授業を行う。

課題②では、ベトナム・ハイフォン大学で日本語を学ぶ学習者と協働でハイフォン市内の地域密着型日本語教室プロジェクトの運営をサポートする。加えて、プロジェクト開始までに、ハイフォン大学で日本語を学ぶ学習者と授業外で交流する

これらの活動をふりかえり、学んだこと、工夫したこと、授業で学んだ知識をいかしたことをまとめ、レポートという形で報告する。そして、執筆の過程では、ピアレスポンス活動を行い、レポートを推敲する。

## 履修上の注意/Notes

- ・ 授業・グループワークへの積極的な参加を求めます。
- ・ 2/3以上の出席がない場合は不合格とします。
- ・ 遅刻または早退3回で1回の欠席とみなします。
- ・ 30分以上の遅刻または早退は欠席とします。
- ・ 授業外で海外で日本語を学ぶ学生に対してオンラインによる日本語授業を行ってまいります。日程については初回の授業でお知らせします。
- ・ 16回目に期末試験を行いません。

## 情報端末の活用

- ①講義資料はMicrosoft Teamsを通じて事前配信する
- ②クラス内でのグループディスカッションは、Microsoft Teamsに記入してもらうため、毎回の授業時にはPCを持参すること。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A : 日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B : 日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C : 日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D : 日本語を教えるために必要な理論と実践に関する基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

## 成績の評価方法/Grading

1. 授業への積極性・貢献度 10%
2. リフレクション 10%
3. 課題① 40% (活動20%、レポート20%)
3. 課題② 40% (活動20%、レポート20%)

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	日本語教育への道しるべ
著者名	坂本正, 川崎直子, 石澤徹 監修
出版社	凡人社
出版年	2017
ISBN	9784893589279
教材費	1800

### 参考書2

書名	日本語教育学を学ぶ人のために
著者名	青木直子, 尾崎明人, 土岐哲編
出版社	世界思想社
出版年	2001
ISBN	978-4790708919
教材費	

### 参考書3

書名	日本語教育 学のデザイン : その地と図を描く
著者名	神吉宇一 編著
出版社	凡人社
出版年	2015
ISBN	978-4893588937
教材費	2600

### 参考書4

書名	ヒューマンな英語授業がしたい! : かかわる、つながるコミュニケーション活動をデザインする
著者名	三浦孝, 中嶋洋一, 池岡慎 著
出版社	研究社
出版年	2006

ISBN	978-4327410667
教材費	2800

参考書5

書名	文化、ことば、教育：日本語/日本の教育の「標準」を越えて
著者名	佐藤慎司, ドーア根理子編著
出版社	明石書店
出版年	2008
ISBN	978-4750328485
教材費	

参考書6

書名	ピア・ラーニング入門：創造的な学びのデザインのために
著者名	池田玲子, 館岡洋子著
出版社	ひつじ書房
出版年	2007
ISBN	978-4894762886
教材費	

参考書7

書名	ことばで社会をつなぐ仕事：日本語教育者のキャリア・ガイド
著者名	義永美央子, 嶋津百代, 櫻井千穂編著
出版社	凡人社
出版年	2019
ISBN	9784893589576.0
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎
実践的英語力	○
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

<input type="radio"/>
-----------------------

## 地域志向科目

--

## 使用言語

日本語
-----

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

海外で日本語を学ぶ学生に向けたオンラインによる交流を授業の中心にしながら、日本語教授法の知識を学ぶ。
--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KZ2052	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	3年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法演習				
担当教員（ローマ字表記）	青木 香代子				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

## 授業の概要/Course Overview

日本語授業の実際を体験的に学ぶことにより、教育能力の向上を図る。授業では、主に大学内で開講されている留学生のための日本語クラスの授業観察・参加を通して日本語教師として必要な知識・能力についての認識を深める。

また、担当教員の指導のもと、初級レベル～上級レベルの授業実習も行う。授業観察・実習演習・グループでの討論を通して理解を深める。

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教案、教壇実習

## 到達目標/Learning Objectives

1. 授業観察・授業参加を通して日本語教育に必要な知識・能力とは何か理解できる。
2. これまで学んだ知識と技能を基礎として、教案及び教材を作成し、実際に授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 授業についてのオリエンテーション

第2回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第3回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第4回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)

第5回 教案・教材作成

(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)

第6回 実習準備

(学生授業シミュレーション)

第7回 教壇実習①

(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)

第8回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第9回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

第10回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

【8～10回の授業外学修】授業後レポート：見学した授業について報告を行う

第11回 教案・教材作成及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)

第12回 実習準備

(学生授業シミュレーション)

第13回 教壇実習②

(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)

第14回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等

(授業後レポート：見学した授業について報告を行う)

第15回 反省会とフィードバック

(グループディスカッション:ラウンドロビン：本授業を通じた振り返りを行う)

#### 【授業外学修】

- ・各回の授業外学修に要する時間は平均90分程度を目安とする(実習授業準備、レポート作成や発表準備を含む)。
- ・授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨むこと。
- ・授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に活かせる点を書き留め、授業見学記録として提出すること。
- ・教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深めておくこと。
- ・教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成すること。助言に基づき、改善に取り組むこと。
- ・教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組むこと。
- ・授業見学記録や教材、教案等はポートフォリオとしてまとめておくこと。

#### 【アクティブラーニング】

- ・授業全体として担当クラスでの教壇実習に向けてのPBL(Project Based Learning)として行う。
- ・「授業見学・参加」では、茨城大学日本語研修コースに参加し、授業の流れや学習者等を観察し、日本語を教えるにあたっての基本的知識や姿勢を学び、授業見学記録にまとめ、教壇実習に備える。また、必要に応じて、会話練習の相手やディスカッションのメンバー等として授業に参加する。
- ・「教案・教材作成」及び「実習準備」では、指導教員の助言を得て、教案や教材を作成し、必要に応じて改善した上で、授業シミュレーションを行って教壇実習に臨む。
- ・教壇実習では実際に日本語研修コースで外国人留学生対象授業を2回行う。教壇実習の後には「振り返り」を行い、授業の改善方法について考える。

## 履修上の注意/Notes

- ・2/3以上出席しない場合は、不合格とする。遅刻は認めない。
- ・「日本語教育プログラム」の選択科目の所要単位をすべて修得済みで、同科目以外の必修科目をすべて履修済みであること。

## 情報端末の活用

授業内でPCを使用する。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができる。
- A：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができる。
- B：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができる。
- C：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができる。
- D：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができていない。

## 成績の評価方法/Grading

実践授業40%、レポート40%、授業貢献度20%  
16回目に期末試験は行わない。

## 教科書/Textbook(s)

## 参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	初級日本語〈げんき〉 GENKI AN INTEGRATED COURSE IN ELEMENTARY JAPANESE
著者名	坂野永理, 池田庸子, 大野裕, 品川恭子, 渡嘉敷恭子 著
出版社	ジャパンタイムズ出版
出版年	2020
ISBN	9784789017305
教材費	3600

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

## PBL科目

## 地域志向科目

## 使用言語

## 実務経験のある教員による授業科目

## 実践的教育から構成される授業科目

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--



時間割コード	KZ2053	ナンバリング	KZ-MUL-331-JEP	科目分野	演習
開講曜日・時限	集中	単位数	2	日英区分	日本語
対象学生	L P	対象年次	3年次～4年次		
開講年度	2022年度後期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本語教授法演習(海外)				
担当教員（ローマ字表記）	池田 庸子, 未定				
シラバス用備考	【後期】				

## 授業題目/Title

日本語教授法演習(海外)
--------------

## 授業の概要/Course Overview

海外で行われている日本語教育の実際を体験的に学ぶことにより、日本語教育に関する知識を深め、教育能力の向上を図る。海外協定校への留学中に、協定校の指導教員の指導のもとで、日本語クラスの授業見学、日本語学習者の会話パートナー、教材作成の補助、教壇実習等を行い、日本語教師として必要な知識・能力についての認識を深める。茨城大学では、留学前にオリエンテーション、帰国後に報告会を行う。
--

## キーワード/Keyword(s)

外国語としての日本語教育、日本語教授法、授業見学、教壇実習、海外協定校
-------------------------------------

## 到達目標/Learning Objectives

①授業観察・授業参加を通して日本語教育に必要な知識・能力とは何か理解できる。
②これまで学んだ知識と技能を基礎として、教案及び教材を作成し、授業を行うことができる。

## 授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1回 授業についてのオリエンテーション(茨城大学)
2回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
3回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
4回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
5回 教案・教材作成 (協定校)
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
6回 実習準備 (協定校)
(学生授業シミュレーション)
7回 教壇実習① (協定校)
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)
8回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
9回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
10回 授業見学・参加及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
11回 教案・教材作成及び、それに伴う作文添削・宿題・教材作成補助等 (協定校)
(ピア・エディティング、ピア・インストラクション：教案作成にあたり、ピア・エディティングを行う)
12回 実習準備 (協定校)
(学生授業シミュレーション)
13回 教壇実習② (協定校)
(学生授業、リフレクティブジャーナル：教壇実習を実施し、振り返りを行う)
14回 協定校での全体振り返り (協定校)

15回: 帰国後報告会・全体振り返り(茨城大学)

#### 【アクティブラーニング】

協定大学の受入れ教員と協議して以上のような活動を行うため、アクティブ・ラーニングの要素としてはピア・インストラクション、学生授業、サービスマーケティング、当日レポート方式等が含まれる。

#### 【授業外学修】

- ・授業見学・参加の前には、見学授業の使用教材を予習し、指導項目等を確認して臨むこと。
- ・授業見学後には、授業の流れや学習者の様子、指導項目の説明の仕方や学生への指示等について、気づいたことや自分自身の授業に活かせる点を書き留め、授業見学記録として提出すること。
- ・教壇実習に向けて、使用教材だけでなく参考書等を用いて指導項目についての理解を深めておくこと。
- ・教壇実習に向けて、指導教員及び他の学生からの助言や提案を参考にし、教案・教材を作成すること。助言に基づき、改善に取り組むこと。
- ・教壇実習後は反省点をまとめ、改善に取り組むこと。
- ・授業見学記録や教材、教案等はポートフォリオとしてまとめておくこと。
- ・受入大学の指導教員の指導の下、活動記録を作成する。

※①共同開講の合意のある協定校：

- ・インドネシア教育大学(インドネシア)、
- ・ウィスコンシン州立大学スペリオール校(米国)、
- ・アイダホ州立大学(米国)
- ・仁済大学(韓国)
- ・レンヌ第1大学(フランス)
- ・マレーシア科学大学(マレーシア)

\*新規受け入れ協定校がある場合は、グローバル教育センターホームページで周知する。

※②協定校のカリキュラムとの関係があるため、上記の授業計画の順序等には変更がある場合もある。

## 履修上の注意/Notes

- ・「日本語教育プログラム」の選択科目の所要単位をすべて修得済みで、同科目以外の必修科目をすべて履修済みであること。
- ・「日本語教授法演習(海外)」受け入れの合意のある上記協定校への留学が決定していること
- ・履修登録は茨城大学で行う。
- ・受け入れ大学の事情により実習ができない場合もあるため、留学申し込み前にグローバル教育センター教員に相談して実習先を決めること。

## 情報端末の活用

留学中はPC等の情報端末が必要となる。

## 成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを十分に修得し、さらに的確な授業を行うことができています。
- A：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを修得し、さらに的確な授業を行うことができています。
- B：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを概ね修得し、さらに授業を行うことができています。
- C：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルを最低限の修得をしており、授業を行うことができています。
- D：日本語の授業を行うための基本的な知識とスキルが修得できておらず、授業を行うことができていない。

## 成績の評価方法/Grading

受入大学教員の活動評価40%、報告会発表20%、レポート(活動記録等を含む)40%  
16回目に期末試験を行わない。

## 教科書/Textbook(s)

備考	実習校、実習担当科目等によって異なるので、協定校の受入担当教員の指示に従う。
----	--

## 参考書/Reference Book(s)

### 参考書1

書名	初級日本語文法と教え方のポイント
著者名	市川 保子 著
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883193365
教材費	2000

### 参考書2

書名	新・はじめての日本語教育1
著者名	高見沢 / 孟
出版社	アスク語学事業部
出版年	
ISBN	9784872175141
教材費	1900

### 参考書3

書名	新・はじめての日本語教育2
著者名	高見沢 孟 著
出版社	アスク語学事業部
出版年	
ISBN	9784872175158
教材費	1900

### 参考書4

書名	初級を教える人のための日本語文法ハンドブック
著者名	松岡 弘 監修
出版社	スリーエーネットワーク
出版年	
ISBN	4883191559
教材費	2200

## 関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

## アクティブ・ラーニング型科目

○
---

## PBL科目

--

## 地域志向科目

--

## 使用言語

その他 留学先の言語等を使用する場合もある。
---------------------------

## 実務経験のある教員による授業科目

--

## 実践的教育から構成される授業科目

<ul style="list-style-type: none"><li>・ 留学先の協定校で行われている日本語授業の見学や日本語サポートを行う。</li><li>・ 協定校の指導教員の指導のもと、日本語日本文化関連のイベントの企画やサポートを行う。</li></ul>
--

## 社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--